



▲「どの職業でも同じことがいえるかもしれませんが、資格は仕事をする手段でしかないのです。取得したら終わりではなく、その先を考えておくべきでしょう」

弁護士

福田 隆行さん

司法試験合格は狭き門。心と体を強くして、
どんな弁護士になるか具体的なイメージを持つことが大事

福田さん
弁護士へのSTEP

12歳 テレビのニュースを
観て

消費者被害のニュースで消費者側の救済に取り組む弁護士を見て憧れを抱く。

16歳 読書とテニスの日々

高校時代は硬式テニス部に所属。小説が好きで本をたくさん読んだ。

20歳 大学生活

慶應義塾大学法学部へ進学。2年のときに本格的に司法試験の勉強を開始。予備校へも通う。週1日はテニスサークルで汗を流す。

24歳 法科大学院へ進学

毎朝5時に起きて自習室へ行く。勉強漬けの日々。

26歳 司法試験合格

司法修習で長野と埼玉へ。

27歳 弁護士登録

弁護士登録をして「堀法律事務所」に入所。「一般社団法人裁判員ネット」も立ち上げる。

小学生のころから将来は人の役に立つ仕事に就きたいと考えていました。そのころは政治家という職業も頭の中になかったのですが、ある日テレビで消費者被害に関するニュースを見たんです。弁護士が、大企業と争う関係にある消費者という弱い立場の人の救済に取り組んでいるのを見て強い憧れを抱きました。政治家として社会を変えていくよりも、個人で少数派を助けられるような弁護士の仕事が自分のやりがいになると感じたのです。

とはいっても中学生時代は陸上部の活動に一生懸命でした。高校も進学校だったので勉強に関しては厳しかったのですが、私はそれほど勉強が得意ではありませんでした。同じ目標を持っている仲間と切磋琢磨したいと考えていたので、大学を選ぶにあたって

は、司法試験合格者を多数輩出している大学に行きたいと考えていましたが、現役では希望の大学に合格することができず、卒業後に1年間猛勉強をして希望する大学に入学しました。

現在司法試験を受けるために必要とされる法科大学院制度が生まれたのが、私が大学を卒業する年でした。私は司法試験に合格することを目指していましたが、卒業時は法科大学院を受験せず従来の司法試験を受けましたが、その年は合格することができず、法科大学院を受験することに方針転換しました。このときに将来に向けて大きな覚悟を持ってたと思います。

人を相手にする仕事に
マニュアルはない

翌年、法科大学院へ進み、2年間



▼弁護士の仕事は常に法律のなかで行われるとは限らず、依頼者のカウンセラー的な立場になる場合もある。コミュニケーション能力は必須だ



▲司法試験を受験するには法科大学院修了または司法試験予備試験の合格が条件。法科大学院は2004年に開校されたが、10年経ち学校数は減少傾向にある
▼運営している「裁判員ネット」では、裁判員制度の理解を深めてもらうため、高校で出張授業や教員向けの講義を行ったりしている



は毎日早朝から夜遅くまで勉強だけの日々です。その甲斐あり、卒業後に司法試験は合格しました。

この時期に気づいたのは、「なぜ弁護士になりたいのか、なぜこの勉強をしているのか」ということを具体的に考えることが最大のモチベーションになるということでした。

弁護士という仕事は非常に職域が広いので、さまざまな可能性が広がる魅力的な職業だと思います。その分、自分が何をしたいか、どういうことができる弁護士になりたいのかという明確なビジョンを持つことも大切です。弁護士の資格というのは自分がやりたいことを実現するための手段のひとつではないので、弁護士になったその先を高校時代から考えておけるとよいと思います。もちろん多感な時期でもある

ので、さまざまな経験を積んで人生観を深めておくことも将来のために必要です。

私は弁護士の仕事は裁判での勝ち負けがすべてではないと考えます。法律に当てはめて導き出された結論が、依頼者にとって常にベストだとは限らないのです。ときには和解がベストな結果である場合もあります。それは依頼者一人ひとりで変わってきます。生身の人間を相手にしている職業なので、コミュニケーションをしっかりとることがもっとも重要だし、苦勞する部分もあります。その反面、人との信頼関係が築けて、ベストな解決ができたときはこのうえない喜びも感じられます。

人の人生や運命を左右することもあつた仕事なので、強い覚悟を持って目指して欲しいと思いますね。



Profile

1981年生まれ。慶應義塾大学法学部法律学科、同大学法科大学院卒業。司法試験合格後、司法修習を終え、「堀法律事務所」に入所し、さまざまな案件を担当している。弁護士登録をした年に市民の視点から裁判員裁判について考え情報を発信していく「一般社団法人裁判員ネット」も立ち上げ、ボランティア活動も行なっている。

弁護士の1日

08:00	メールと新聞をチェック
09:00	出勤
10:00	依頼者との打ち合わせ
11:00	法律相談
12:00	書類作成
13:00	昼食
14:00	法律相談、書類作成など
16:00	裁判所へ
17:00	事務所へ戻り書類作成など
21:00	会議
23:00	帰宅。自宅にて書類作成など

ほかにもある司法の仕事

裁判所職員

円滑な審理や裁判を支える職員で、裁判所事務官、裁判所書記官、家庭裁判所調査官などがある。裁判所職員採用試験合格後、採用候補者名簿に記載され、裁判所事務官や家庭裁判所調査官補に。その後さらに試験や研修を経て裁判所書記官や家庭裁判所調査官になれる。

司法書士

法律事務を助けてくれるもっとも身近な頼れる法律家ともいえる。不動産登記や商業登記などの申請書類や、法務局や裁判所、検察庁に提出する各種書類を作成する仕事。試験合格後、日本司法書士会連合会に申請登録して司法書士となる。

行政書士

都道府県庁や市区町村役場といった行政関係の役所に提出する書類を作成するプロフェッショナル。扱う書類は数千種類ともいわれるほどで、幅広い業務分野がある。